

1 非持露頭の位置

中央構造線の非持露頭は、伊那市長谷のグラウンド南斜面にあります（図-1）。

国道152号線脇の長谷グラウンド駐車場を通り、フェンスの切れ目を湖側に降りていくと露頭に出ます。非持露頭（写真-1）は近年になって整備された露頭ですが、湖水の増減によって露頭が荒れてしまい、写真のような姿は見られません。



写真1 非持露頭全景



2 みんなで掘り出し、みんなで調べる

伊那谷自然友の会の調査で「活断層ではないか」と調査を始めました。上伊那教育会、伊那谷自然友の会、中央構造線博物館、早稲田大学、南アルプスジオパークガイドの皆さんが総力をあけて調べました。



写真2 非持露頭での地質現象を調べようと掘り出した皆さん



写真3 基盤のズレ

3 基盤のズレ

非持露頭で露出した基盤を見ると、断層を境に東側が約60cm上がっていました。

これは、東にある南アルプスが隆起している現在の動きを反映したものです。

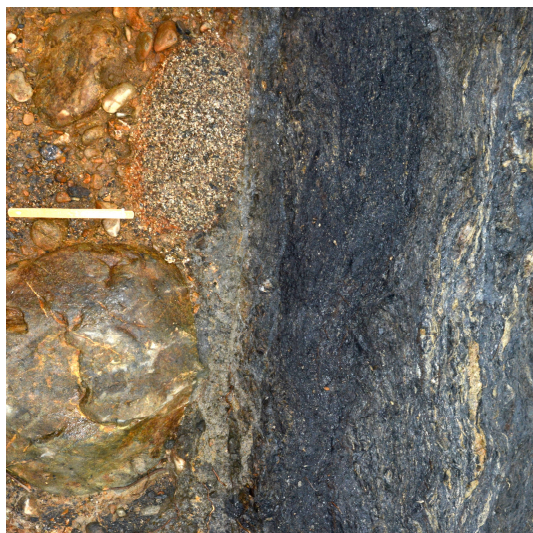


写真4 断層周辺の微細構造

4 断層周辺の微細な構造

断層の西にある礫は長径を北東に向けています。さらに東の三波川帯の結晶片岩の微細構造から、この断層の動きは総じて右ズレをおこなっていることがわかりました。

5 礫層の乱れ

写真3で観られたズレている基盤の上位にある礫層は大きく乱されていました。これは、主断層から分かれた小さな断層が幾筋も礫層内を走り、砂礫をかき回したためです。



写真5 基盤の上位にある礫層の乱れ(赤線が礫層内の主な活断層)